



吉川新都心構想の提案

NPO法人シビルサポートネットワーク



提案の背景

- 吉川市は現在、両隣りの越谷市と三郷市の市境に大規模商業施設が相次いでオープンすることとなり、今後のまちづくりに様々な問題が発生することとなります。
- また、現在新駅建設の計画が進められている中でこの新駅機能を生かしたまっすぐり構想は明確ではありません。

考えられる2つのシナリオ



- シナリオ1:現状の延長線上の発想でまちづくりを進める。
- シナリオ2:大胆とも思える構想を市民・行政・企業の協働で作り上げてこれに向かって一丸となりまちづくりに取り組む

シナリオ1



- 従来のような課題解決型の施策では未来の吉川の姿が見えてきません。

越谷、三郷への通過交通の増大と既存商店街が大規模店舗の影響を受ける。



シナリオ2



- それはLRT(Light Rail Transit)を基軸とした吉川新都心構想です。

新たなまちのシンボルとなり、LRT導入により賑わうまち中



LRTって何？



- LRTは従来の路面電車の走行性能や走行環境などを大幅にグレードアップさせた次世代型の路面電車です。人と環境にやさしく、まちの活性化に寄与し欧米では広く普及しており、日本でも注目を浴びています。





取り組みの原点

- LRTはその導入が目的ではありません。LRTを活用しよりよいまちづくりを進めることが目的です。
- このためには、住む人や働く人を含めた市民の一人ひとりがまちづくりの担い手としての意識をもって取り組まなければなりません。



どうしてLRTなのか？



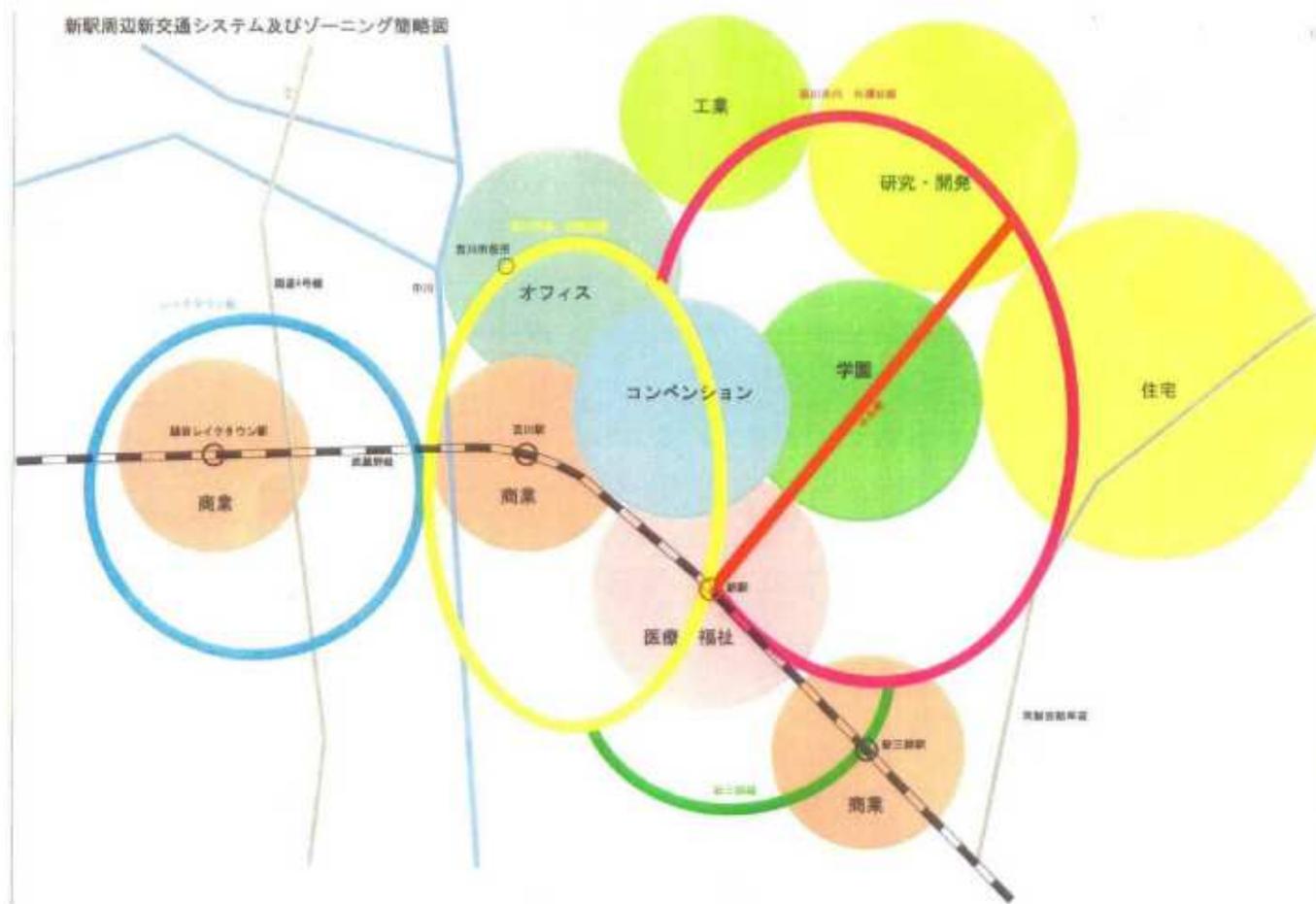
- 都市交通問題の新展開
- 産業コンプレックスの形成
- 中心市街地活性化(商業振興)
- 福祉・環境対策
- 都市整備の促進
- などなどLRTの導入の波及効果は極めて高いものがあるからです。

首都圏北東部の空白域





LRTを基軸とした新都心構想





公共交通指向型都市開発

- 吉川新都心構想の実現には公共交通指向型都市開発(TOD)が不可欠です。
- TODとは公共交通を基軸とした重点都市開発と都市構造デザインおよび土地利用のコントロールです。
- これには住民、企業、行政の一体となった協働が不可欠です。



実現への第一ステージ

- 第4次吉川市総合振興計画は平成23年に終わり新たな第5次総合振興計画が平成24年からスタートします。その第5次計画づくりにこの新都心構想を盛り込むためには今、志ある市民が立ち上がるべきです！
- 生まれた夢やアイデアを少しずつ形にしていく。そして多くの市民が考えや意見を出し合いその輪を広げていく！
- その過程は刺激的で楽しいものです！



新駅を生かしたまちづくり

- 新駅の特徴、土地利用、都市機能の整備
- 新駅と周辺地域の拠点、市街地を結ぶネットワーク
- 首都圏北東部の玄関口としての魅力的なまちづくり
- 福祉を軸としたまちづくり



新駅設置のインパクトを生かす

- 医療・福祉施設および健康維持増進施設の展開
- 工業団地の新たな産業の集積
- 大学・研究施設の誘致
- ユニバーサルデザインの展開
- 高齢化に対応した住宅地の供給



交通ネットワーク

- 新駅の設置と新交通システム(LRT)
- 首都圏北東部のターミナル拠点整備
- バリアフリー化の促進
- 交通利便性を生かした健康・福祉拠点の整備
- コンベンション機能
- 高齢者用モデル住居地の形成



コンベンション機能の整備

- 学術・研究・開発の立地をはじめ、健康・福祉のまちづくり、その他先端的工業等の集積、地域文化の振興などにより全国的な人的交流が広がります。
- コンベンションホール、文化施設、ホテル等の整備



健康・福祉の拠点形成

- 健康・福祉を軸としたまちづくりの拠点として、各種の福祉施設、健康増進施設及び医療施設の集積
- 各施設をつなぐ歩行者用道路整備
- 老人保健施設、ボランティアセンター、デイサービスセンター等の福祉施設
- 健康増進センター、生涯学習センター、医療施設



高齢者用モデル住居の形成

- 高齢者社会の進展に伴う、健康・福祉のまちづくりの拠点にふさわしい住居地
- 多世代型住居を可能とする住宅地の整備
- 健康な一人暮らしを可能とする高齢者住宅の供給
- 安心・快適な環境整備



市民の熱い想いを！

- こんな吉川に住みたい。
- インパクトのある魅力ある都市にしたい。
- 市の財政に依存しない開発を指向する。
- 市民本位・市民参加のまちづくりとする。
- 一人ひとりの声は小さくともまとまれば大きな力になります。
- そして夢はいつか実現します。